

5つの学校跡地の利活用により地域の面的再生の実現へ ～まちとひとをつなぐ、瀬戸の未来をつくる～

この共同研究の3つのKey Point!!

- ① 同時発生する5つの小学校跡地の利活用という、類例のない高難度の地域課題解決への第一歩である。
- ② 自治体と金融機関・シンクタンクが委託者-受託者という関係ではなく、膝詰めでアイデアを持ち寄っている。
- ③ 小学校跡地単体ではなく、周辺地域全体の面的再生を実現するという点を強く意識している。

2020年春



将来(イメージ)



経緯

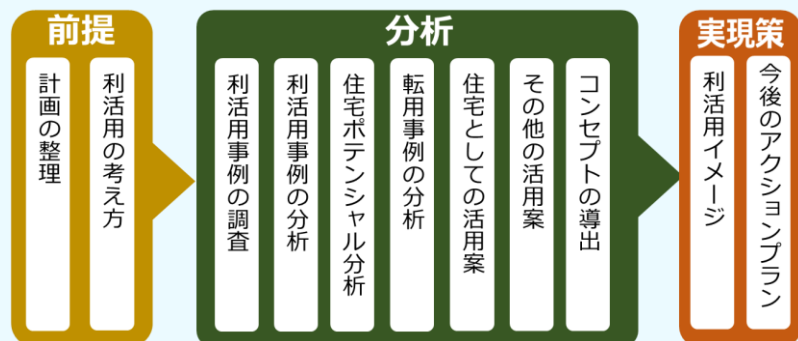
- I. 瀬戸市では、児童・生徒数が減少していること等を背景に、5つの小学校、2つの中学校を統合し、小中一貫校「にじの丘学園」を整備しています(2020年春開校予定)。
- II. 5つの小学校は一つの役割を終えることとなるため、跡地の利活用を地域の魅力創造につなげていく必要があります。
- III. 瀬戸市と(株)日本政策投資銀行・(株)価値総合研究所は、5つの小学校跡地の利活用を通じて尾張瀬戸駅周辺エリア全体の面的再生について検討することとしました。
- IV. 検討の結果、子育てや生涯学習、福祉など、地域に必要な機能を集約した拠点の再生・整備により、「まち」と「ひと」をつなぎ、地域全体の魅力を高められる可能性があることがわかりました。

まちの将来像の実現策を検討！

第6次瀬戸市総合計画で示す市の将来像は「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」です。この5つの小学校跡地の利活用を、将来像の実現を図るためのきっかけにしたいと考えています。

今回、こうした背景を前提として、改めて地域の現状を経済指標などから多面的に分析しました。その結果、保育園・多世代交流施設等の整備、エコハウス・コーポラティブ住宅等の付加価値の高い住宅供給などが、政策的に優位ではないかと考えられました。

【報告書の構成】



主筆:瀬戸市

主筆:(株)日本政策投資銀行・(株)価値総合研究所

主筆:瀬戸市

協働するまちへ

～まちとひとをつなぐ、瀬戸の未来をつくる～

この結果をもとに、各学校の伝統や特徴、立地条件、事業者とアテンドなどを踏まえて、小学校跡地の利活用イメージを描きました。その想いとしては次の3つです。

- ① 5つの小学校跡地に新たな息吹を注ぎ、複合的な機能や他の施設との連携によって、未来に向けた新しいコミュニティを創造していきたい。
- ② 各学校の伝統や特長を踏まえながら、地域で共に暮らす・学ぶ・支えあう機能を新たに付加し、「まち」と「ひと」をつなぎ拠点としたい。
- ③ 小学校跡地の利活用を通じて、地域全体の魅力を創造するとともに、既成市街地のストック更新を誘導し、瀬戸市民の暮らしやすさを向上させたい。

～今後の実現に向けて～

- ◆ 今回の研究が、「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」実現の一助となれば幸いです。
- ◆ 本報告書は、今後の尾張瀬戸駅周辺エリアのまちづくりについて、市民・企業の方々に広く知っていただくとともに、まちづくりの担い手としての参画に向けた検討の一助となることをねらいとして作成したものです。
- ◆ 具体的な事業推進を図るものではありません。
- ◆ この報告書をたたき台として、これから市民・企業の方々と対話、協働しながら、未来志向のまちづくりの実現を図っていきたく考えています。

【作成】

瀬戸市
SETO CITY

DBJ 日本政策投資銀行

株式会社 価値総合研究所